

エコファーマーネットワーク通信

〈No.18〉



☆2月の大量降雪による農業被害の便りに心を痛めるばかりです。お見舞いを申し上げます。

☆事務局では、12月以降環境保全型農業推進コンクール対応に全力を傾注してきました。環境保全型農業、有機農業の範となる経営体を表彰する当コンクールも19回目になります。

☆今回のコンクールでは、環境保全型農業及び有機農業に取り組む63事例の応募が全国からありました。うち48事例が、各都道府県の環境保全型農業推進協議会等から全国環境保全型農業推進会議に最終的に推薦されました。推薦調書は、厳正な審査のもと、取組内容が特に優れていると認められる事例2点を「大賞」、最も優良であると認められる事例6点を「最優秀賞」、優良であると認められる事例14点を「優秀賞」、さらにそれぞれの特徴に基づいて、「奨励賞」21点、「特別賞」5点を選定しました。

☆2月25日(火)千代田区立内幸町ホールで「第19回環境

保全型農業推進コンクール表彰式・シンポジウム」を開催しました。昨年度までは、すべての表彰は各ブロックで行われてきました。本年度は、大賞（農林水産大臣賞）と最優秀賞（農林水産省生産局長賞）は、東京で表彰されました。

☆当日は、横山農林水産大臣政務官、西郷大臣官房生産振興審議官、近藤生産局農業環境対策課長を来賓としてお迎えしました。

☆表彰式に先立って、松本全国環境保全型農業推進会議会長から、環境保全型農業は安全・安心な農産物の持続的生産を行っている実態について、消費者からより理解を得られることが重要であると指摘されました。このようなソフト面での行政的支援は、環境保全型農業、有機農業が自立した経営体として離陸段階を迎えるまで必要であることを併せ求めました。

☆横山農林水産大臣政務官からは、「農林水産業・地域の活力創造本部」において、農業が持つ多面的機能

の発揮のための地域活動を支援する「日本型直接支払制度」を創設し、法律に基づく措置をとりながら農業の持続的発展と多面的機能の発揮に繋ぐ考えが示されました。

☆シンポジウムでは、オイシックス株式会社の阪下利久氏が「環境保全型農業の推進戦略」と題し基調講演を、続いて取組事例の発表が行われました。まず、第18回大賞受賞者のポークランドグループ代表豊下勝彦氏、合鴨家族・古野農場代表古野隆雄氏の報告がなされました。引き続き、第19回大賞受賞者の遊佐町共同開発米部会会長の菅野英児氏・総務小野寺一博氏、帰農志塾代表戸松正氏から活動事例の報告がありました。いずれも、優れた技術に根付いた事例として、場内からも高い関心が示されました。今回の申込者は176名でした。

(全国エコファーマーネットワーク事務局)